

小鳥のように甲高い声で「ピヨッ!ピヨッ!」と鳴いて子供を呼んだりします。その他にも犬のようにキャンキャン、チュッチュッと鳴くという話もありますがいずれも一般的にライオンやトラなどの凄まじい咆哮とは全く異なります。

臆病で温順、人にもよく慣れて遥か5000年以上も昔から狩りの手伝いをしたりして来ました。皆さんのご存知のエジプトのツタンカーメン王のお墓からも、チーターの寝台が出土されています。

そんなチーターは自然界での地位は高いとは言えずIUCNのレッドリストにも【VU: 危急種】に指定されている絶滅を危惧されている動物です。

こんな人間の手伝いをしてきたチーターを恐竜のように過去の動物として伝えたくはありません。

そこで私はチーター専門保護機関であるCCF “Cheetah Conservation Fund”の支援をする事により、日本からでも遠いアフリカに生息する野生チーターの保護の支援が可能なシステムとしてJCCSを立ち上げました。

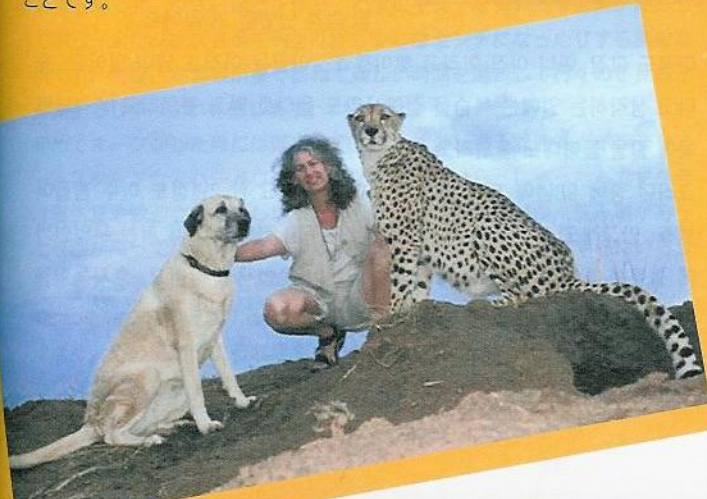
また、動物写真家の方々やWildLifeArtistの方、日本国内の動物園にいるチーターの飼育をされている方にもご協力を頂きながらチーターへの関心と呼掛けて行きます。

チーターを守る事は最終的には人間をも守る事にも繋がります。かつて多くの森林を伐採した事により、オゾン層が破壊され紫外線の恐怖や温暖化の恐怖にさらされている今の地球を少しでも維持するにはチーターを始めとした動物を保護し、その動物が生きられる森林や草原という環境を維持する事が必要です。また、その環境は結果として深刻な問題であるオゾン層の破壊を食い止め、紫外線の恐怖や温暖化の緩和に繋がります。是非、人類の為にもご協力ください。

最後にCCF “Cheetah Conservation Fund”のローリー・マーカー博士からのメッセージです。

親愛なるJCCS及び日本のサポーター達へ

チーター保護基金(CCF)は、野生のチーターを絶滅の危機から救うために協力して下さる日本の支援者達に感謝しております。最も魅力的であり、しかも危険にさらされているこの動物は、アフリカの大型キャットのなかで一番絶滅の危機に直面していますが、これを保護する上で大変重要なことは、世界中の人からサポートを受けることです。



従って、JCCSを通じてか、あるいはナミビアCCFに直接寄付して下されば、大変感謝いたします。更には、チーターや※牧蓄の見張り犬に対する支援寄付も歓迎いたします。

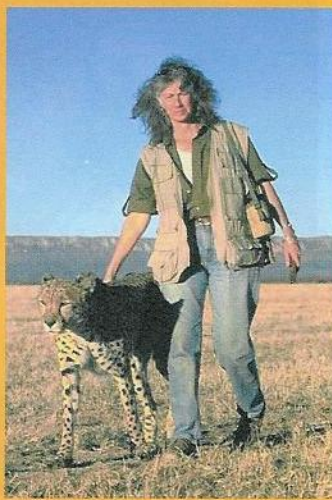
チーター保護基金の活動詳細については、ホームページにアクセスしてご覧下さい。(http://www.cheetah.org/)

もちろん、CCFナミビアへおいでくださり、現場でボランティア活動やチーターの現実を見たり、アシスト作業をすることも出来ます。

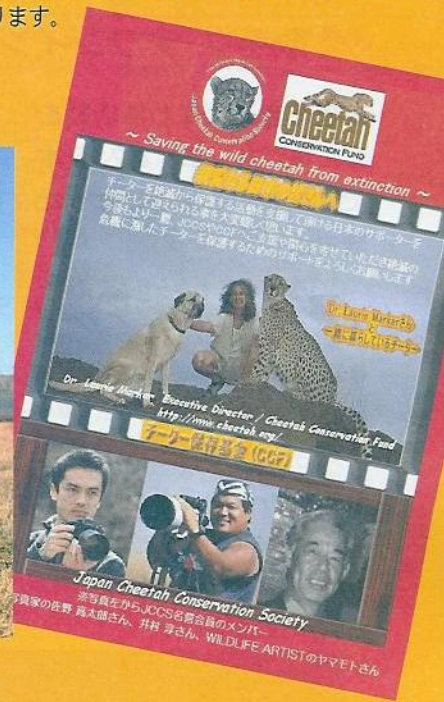
ボランティア活動については、ホームページの中【ワーキングゲスト/ボランティアプログラム: http://www.cheetah.org/?nd=15】を見て下さい。

チーターを救うために、広がりつつある保護基金の支援者の輪に加わって下さることを、期待しております。

敬具



ローリー・マーカー博士
CCF創設者 / 取締役
チーター保護基金



※ 牧蓄の見張り犬とは・・・

チーターの本来の生息地に多くの農場や牧場を営む人間が住み、

チーターの生息地を圧迫した為、誤ってチーターが迷い込んだ時に牧蓄の見張り犬が吠える事でチーターが警戒し銃殺される事が減りました。ローリー博士率いるCCFがチーター保護活動をする以前は年間推定700頭以上ものチーターが銃殺されていました。

次は是非あなたのお力をJCCSにお貸しください。

※ IUCN レッドリスト: 絶滅のおそれのある野生生物のリスト ㉓